

第5学年2組 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月6日

場 所 図書館

指導者 担 任

司書教諭

1. 単元名 未来につなぐ和の文化を調べて発表しよう  
「和の文化を受けつぐ」～和菓子をさぐる～

2. 単元のねらい

- 和の文化について調べて説明するという目的を持って文章を読み、テーマに沿って調べたり、発表のための文章表現を工夫したりして話そうとしている。【関心・意欲・態度】
- 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら適切な言葉を選んで話している。【話すこと・聞くこと】
- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫している。【読むこと】
- 文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。【言語についての知識・理解・技能】

3. 本単元で意図する単元を貫く言語活動について

本単元を貫く言語活動として、「和の文化について調べて発表する」という活動を位置づけた。

発表の際には、伝えたいことを明確にし、話の構成を工夫することが必要である。本教材では、序論・本論・結論という基本的な文章構成やその働き、本論における様々な説明の仕方、効果的な資料の使い方などを押さえることができる。それらを自分たちの発表に生かすことにより「話の構成を工夫しながら適切な言葉を選」ぶ力をつけることができる。と考える。(A-1-イ)

和の文化について調べるためには、文化とは何かを押さえておかなければならない。旺文社の国語辞典によれば、「文化」とは「人類が自然を材料とし、一定の目的に従って理想を実現していく過程」という意味である。昔からある物の中から何となくテーマを決め、何となくそれに理由付けをする浅い学習に終わらないためにも「文化」とは「受けつぐ」主体の強い願いや思いが支えになっているという文化の本質を言葉の追求を通してとらえることが必要であると考えた。その学習を通して、児童は「自分のテーマは和の文化になり得るのか?」「その根拠は?」という調べるための視点を持つことができる。その視点を持ちながら、筆者のあげる3つの観点「歴史」「他の文化との関わり」「支える人々」を手がかりに図書資料から情報を収集・整理する学習を行うことで「目的に応じて、本や文章を比べて読む」力をつけることができる。と考える。(C-1-イ)

4. 単元について

○指導要領での位置づけ

本単元は、学習指導要領の指導事項「A 話すこと・聞くこと」の(1)イ「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」及び「C 読むこと」の(1)イ「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」を主なねらいとしている。

○教材文の構成

本教材は、伝統的な文化の中でも比較的児童にとって想起しやすい和菓子を題材としている。そして、序論・本論・結論という構成は「動物の体と気候」で学習しており文章構成を理解することが容易にできる。

3つの本論ではさまざまな例示の仕方が示されている。本論1では筆者の主張に続いて和菓子の変化の歴史を時代順に示しており、本論2及び3では筆者の主張に続いて、いくつかの例を示す構

成になっている。さらに本論3は2つの内容が書いてあり、一方は説明の後に例を示し、他方は例を示した後に説明をしている。児童は文章の構成方法に着目して学習を進める中で、様々な文章の構成法に触れることができる。

また、本論の中で文章を順序立てて表す言葉として「一つ目、二つ目、三つ目」という言葉や「例えば」「まず、また、一方」などの言葉を使っており、児童が文章を整理して説明するための要素が多く含まれている。

さらに、本教材は読者に自分の考えを伝えるために語尾の使い分けをしている。「～でしょう。」（語りかけ）「～です。」（断定）「～でしょうか。」（問いかけ）という言葉は単なる語感の違いだけではなく、著者が意図的に言葉を変化させていると考えられる。筆者はあえて、読者に対して語りかける文章と、断定する文章、読者の考えを促すような文章を使い分けて自分の考えをより深く読者に伝えようとしていることが伺える。

#### ○言葉の追求を通して

本単元に出てくる「文化」とは人類が自然を材料とし、一定の目的に従って理想を実現していく過程という意味である。

児童は文化という言葉から工芸品や祭りなどを連想するに違いない。では、なぜ筆者はあえて和菓子を教材として取り上げたのであろうか。「食べればなくなってしまう物が文化になり得るか。」ということを考えていくとき、「受けつがれる」という言葉がキーワードとなってくる。

著者はさらに文章後半で「夢」という言葉を使っている。つまり、文化の本質とは単純に形として残る物というものではなく、受けつぐ人々の意思や願いの連なりととらえることができる。

本文の学習で言葉の追求を通して文化の本質に迫っていくことは、後に続く図書館での調べ学習でも自分たちが集めた情報は文化を説明するために適切であるのかという視点につながっていくと考えられる。

#### ○図書館活用の観点から

本単元では、和の文化の中から発表するものを決めて調べ、発表会を開くために、①課題設定→②情報収集→③整理・分析→④まとめ・表現の手順で行う。今回は課題設定には重きを置かず、情報の整理・分析の力を付けることを中心に行う。

##### ①課題設定・・・和の文化の観点を踏まえ、課題を絞る。

課題設定にあたり、児童が興味関心を持ちつつ、発表に向けて自主的に学習することができるテーマ（文化）に絞って提示する。その条件は以下の通りである。

- ・3つの観点を満たす資料が提供できるもの
- ・その資料は5年生児童が自力で読むことができるもの
- ・児童がイメージしやすいもの（伝統工芸品等具体的な形のあるもの・経験のあるもの等）

##### ②情報収集・・・情報カードを使った情報収集　つけたい情報活用能力【要約・引用】

情報収集では、本文で使われている「歴史」「他の文化との関わり」「それを支える人々」の3つの観点で自分たちのテーマに合った情報を集めていく。今回の情報収集では多くの本の中から情報を集めてくるというやり方はせず、自分が選んだ本の中から3つの観点到に沿って情報を探していくという活動を中心に行う。一人一人が異なる資料から情報をとってくることで、グループ全体での情報が多岐にわたると思われる。

##### ③整理・分析　つけたい情報活用能力【情報の比較・取捨選択】

情報カードを観点ごとに整理していく。今回はグループで整理できるように大きなボードを使う。

分析にあたっては、観点との適合性、情報量などを考えながら分析をし、同じような情報を組み合わせたり、必要のない情報を排除するなどの活動をする。整理・分析する際、情報が足りない観点があれば補い、曖昧な部分があれば確認する活動を行うことで、伝えたい内容を明確にすることができ

ると考える。

#### ④まとめ・表現 つけたい情報活用能力【目的にあった方法でまとめる】【資料の活用】

自分たちの一番伝えたいこと（序論・結論）と整理・分析された情報（本論）を文章化していく。教科書を見ると写真・年表などがあることで本文の内容をより分かりやすくしたり、美しさなどを視覚的に伝える働きをしていることが分かる。そのような効果を意識しつつ、提示する資料（写真・実物・図・グラフ等）を選んだり、もっとも効果的な提示場面を考え、発表に生かして行く。

○文章の構成とその巧みな工夫を知るために

本文の学習では、「動物の体と気候」での文章構成の学習を想起する時間を設けたい。まずは、序論と結論に記述されている言葉を取り上げ、それを比較しながら序論と結論の役割と要旨を把握できるようにしたい。

また、本論の学習では3つの本論を比較して、違いを見つける活動を通して本論の論述の仕方には様々な方法があることを知る手がかりとさせるとともに、論述の仕方によって様々な接続語を効果的に使っていることに気づかせたい。

また、語尾の表記方法について、著者が言葉を吟味し意図して使っていることに気づかせたい。特に「～しましょう。（語りかけ）」「～です。（断定）」「～でしょうか。（問いかけ）」の言葉の意味や違いを検討することは、自分たちの発表の中でも有効に活用すべき点であるので取り上げて考えさせたい。

○文章中で使われている言葉の意味から文化の本質の本質に迫るために

児童が筆者の考えをより深く理解していくために「文化」「受けつぐ」という言葉を取り上げ追求していきたい。その際には本文中に出てくる「伝える」「根付く」「込める」「育む」「支える」「磨く」「養う」「夢」などの言葉に着目させ、人々の受けつごうとする意思や願いこそが文化の本質あることに気づかせたい。

○学習の見通しを持つために

司書教諭による発表のデモンストレーションを見ることで、文章の構成や言葉の選び方、資料の提示の仕方などを参考にできるようにする。また、学習の流れを提示し、見通しが持てるようにする。

○テーマを絞っていくために

自分たちのテーマを決めていくときには、和の文化とは何かを再確認してほしいという願いがある。そのために、マンダラート法を使って個々が捉えている和の文化を書きだし、グループで情報交換を行う時間をとる。その後、司書教諭による和の文化に関する本の紹介を行うが、その際、図書資料を使えば3つの観点を探ることができる文化について紹介する。

○発表のために集めた資料を整理していくために

情報を集め整理していくための手立てとして、今回の学習では本文で学習した3つの観点を使って自分たちのテーマに関わる情報を集めていくようにする。本文の学習の中で、ボーン図を使って書いてあることを整理する学習を行い、自分たちが情報を整理していくときの見通しが持てるようにする。実際に図書資料を使って情報を整理していくときには、机上でグループ活動ができるように大きなボーン図を用意する。（子供版KJ法）

児童が情報を整理していく際に担任、司書教諭は以下のことに配慮しつつ支援をしていく。

①集めた情報は観点に即したものであるかどうか。

②より効果的に伝えるためには、どのように情報を整理していけばよいのか。

③より内容を深めるためにさらに加える情報はないか。

学校司書は、足りない情報を補うための資料の提供を行う。

○効果的な発表のために

発表の時には分担を決め、全ての児童が発表原稿を作成し発表の機会を持つようにする。発表に際し内容により説得力を持たせるために、写真や図などを用いる。「新聞記事を読み比べよう」で写真には「アップ」と「ロング」があり、その効果の違いについて学習してきているので、その学習も生

かしていけるように言葉がけをしたい。

### 5. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く	読む	言語に関する知識・理解・技能
①和の文化について調べて説明するという目的を持って文章を読んだり、進んでテーマに沿って調べたりしようとしている。 ②文章の表現方法や資料の提示の仕方を工夫して話そうとしている。	①目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら適切な言葉を選んで話している。	①文章の構成や語句の使い方に着目し、内容を的確に理解して要点をとらえながら読んでいる。 ②資料の中から自分のテーマや観点に関わる内容を読み取っている。	①文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。

### 6. 単元の指導計画および評価計画（全12時間 本時8/12）

次	時	主な学習活動	支援 ○担任☆司書教諭◇学校司書	評価			
				関心 意欲	話す 聞く	読む	言語 評価規準 (評価方法)
一	1	○文章を序論、本論、結論に分け、筆者の主張を読み取る。 ・序論と結論を読み取り、その働きについて考える。	○文章構成の全体像が理解しやすいように本文を1枚のプリントにして配布する。 ○3つの大きな文章構成を常に意識できるように文章を拡大し掲示するとともに、学習したことを記述しておいて次の時間の学習に生かす。 【押さえておきたい基本語句】 序論・本論・結論	①			① ・和の文化について調べて説明するという目的を意識して文章を読んだり、進んで調べてみたい課題をさがしたりしようとしている。(発言、観察) ・文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。(プリント、ノート)
	2	○本論を3つに分けそれぞれの要点を考える。 ・「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」という観点を見つける。	○段落を意識し、段落ごとのつながりが理解しやすいように児童に配布するプリントに段落番号を付記する。 【押さえておきたい基本語句】 柱・説明・具体例・要点	①		①	・和の文化について調べて説明するという目的を意識して文章を読んだり、進んで調べてみたい課題をさがしたりしようとしている。(発言・プリント) ・文章の構成や語句の使い方に着目し、内容を的確に理解して要点をとらえなが

							ら読んでいる。(プリント、ノート)
	3	○前時までに見つけた筆者の思いや要点を整理する。 ・ボーン図を使って本文を整理する。	○本文の要点を理解し、整理するとともに、自分たちの調べ学習の時の見通しが持てるようにボーン図を利用する。			①	・文章の構成や語句の使い方に着目し、内容を的確に理解して要点をとらえながら読んでいる。 (ボーン図)
二	4	○言葉の追求を通して筆者の考えに迫る。 ・「文化」「受けつぐ」という言葉を手がかりにその本質について考える。	○「文化」「受けつぐ」という言葉の意味を調べ、それを根拠にしながら「文化の本質」の本質に迫れるようにする。 ○本文中に出てくる「伝える」「根付く」「込める」「育む」「支える」「磨く」「養う」「夢」など人々の意志や願いが込められた言葉を適宜取り上げ、考えを深めるようにする。			①	・文章の構成や語句の使い方に着目し、内容を的確に理解して要点をとらえながら読んでいる。(発言)
三	5	○発表のイメージを持ち、発表までの学習の流れを確認する。  ○マンダラートを書いたり、本の紹介を聞いたりする。	☆発表のデモンストレーションを行う。 ○今後の学習の流れを示す。  ☆和の文化に関する本を紹介する。	①			・和の文化について調べて説明するという目的を意識して文章を読んだり、進んで調べてみたい課題をさがしたりしようとしている。(マンダラート・観察)
四	6 7	○グループの発表テーマを決め、情報を集める。 ・観点を意識しながら情報カードを使って情報を集める。	○3つの観点を意識して情報を集めるように声掛けをする。 ☆情報カードの書き方について声掛けをする。 ◇必要な図書資料を提供する。			②	・資料の中から自分のテーマや観点に関わる内容を読み取っている。 (情報カード)
	8 本時	○グループごとに集めた情報を整理する。 ・大きなボーン図に情報カードを並べて整理していく。 ・3つの観点について情報を取捨選択する。 ・情報が足りないときにはその場で調べ情報を加える。 ・序論、本論で使いたい言葉を選ぶ。	○☆①集めた情報は観点に即したものであるかどうか。 ②より内容を深めるために加える情報はないか③削る情報はないかという視点で声掛けを行う。 ○本文を参考にできるように本文の学習で使った掲示物を図書館に掲示しておく。 ☆情報カードを用意する。 ☆観点を整理しやすいようにボーン図を用意する。			②	・資料の中から自分のテーマや観点に関わる内容を読み取っている。(情報カード、ボーン図)

五	9	○接続語の使い方、語尾の使い方に注意しながら作文する。	○話したいことが効果的に伝わるように、本文で学習した接続語や語尾の使い方を想起する時間を設ける。 ・1人1人が文章を作成し、グループで検討できるように原稿用紙を用意する。	②			・文章の表現方法や資料の提示の仕方を工夫して話そうとしている。 (情報を整理したボード図、原稿)
	10	○発表に使う資料を用意し、グループで発表練習をしながら改善点を話し合う。 ・本文を参照しながら文章の改善点を話し合う。	○改善点が明確になるように視点を示す。 ①話している内容が整理されているか。(本文を参照) ②接続語が適切に使われているか。 ③語尾が統一され、さらに聞き手を意識した工夫がなされているか。		①		・目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら適切な言葉を選んで話している。(発表・原稿)
	11	○話し合った改善点をもとに文章を推敲する。					
	12	○作った文章をもとに発表し改善点を話し合う。	○視点を持って発表を聞くことができるように、聞くときの視点を示したワークシートを用意する。	②	①		・資料の提示の仕方を工夫して話そうとしている。(発表) ・目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら適切な言葉を選んで話している。(発表)

## 7. 本時の学習

### ①ねらい

- ・必要な情報を選んだり組み合わせたりして、伝えたい内容を考える。(読む)

### ②展開

学習活動と予想される児童の反応	評価と教師の支援 ○担任☆司書教諭◇学校司書
1 本時のめあてを確認する。	○児童が本文で学んだことを想起できるように、本文で使用した掲示物を図書館に掲示する。
	情報カードの内容を考えて情報を整理しよう。
2 情報を整理する方法や約束を確認する。	○1人が1つの情報カードについて説明し、それについて検討した上でボード図に載せていくことを確認する。 ○同じ情報や似た情報があるときにどのようにまとめていくのかを情報カードを提示しながら例示する。 ○情報に偏りがあったときにどうするのかをボード図を使って例示する。

<p>3 グループで話し合いながら、観点ごとに集めた情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、個々に自分が集めた情報カードを観点ごとに分類する。</li> <li>・情報カードを、観点ごとにボーン図に並べて分類する。</li> <li>・観点到即しているか、分量は適当か話し合う。(1つの観点につき3つ程度の内容)</li> <li>・情報が足りない場合は、図書資料を使い付け加える。</li> </ul>	<p>◇グループ毎の図書資料を用意する。</p> <p>○☆以下の視点で声かけを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①集めた情報は観点到即したものであるかどうか。</li> <li>②より内容を深めるためにさらに加える情報はありますか。</li> <li>③情報が多すぎるときに、削る情報はありますか。</li> </ul> <p>◇足りない情報を補充する資料を提供する。</p>
<p>4 序論と本論の内容について話し合う。</p>	<p>○教材文は序論・本論・結論という構成になっていることを想起させ、序論と本論でどのようなことを話せばよいか相談する場を設定する。</p> <p>○分類が終わったグループのボーン図を示しながら、序論と結論に使いたい言葉を探していくことを全体に伝える。</p>
<p>5 次時の見通しを持つ。</p>	<p>○序論、結論についての言葉の選択ができていないグループのために、他のグループのボーン図を参考にする時間を設けるとともに、ボーン図をもとに分担をして作文をしていくことを伝える。</p>

③評価

	十分に満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援が必要と判断される児童への支援方法
読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報カードの内容を読み取り、類似している情報を統合したり、必要な情報を取捨選択したりしながら整理しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報カードの内容を読み取り、観点到即して情報を整理しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた情報から観点到即に分けるためのキーワードを示したり、本文と比較して考えたりできるように声かけを行う。</li> </ul>

④ 授業研究の視点

- ・グループで情報カードを集めて整理・検討をしたことは、伝えたいことを明確にするために効果的だったか。